

---

# 活動紹介

---

## へいじろう編集委員より

地域医療連携室 室長 坂口 健

年報誌『飛魚』の小型版として、年に4回広報誌『へいじろう』を発刊しております。平成19年6月1日の創刊号から、これまでに45号を発刊しました。院内講演会・院内部活紹介・新入職員紹介・各科診療予定・患者様から頂いた短歌・詩など、その時々のご多様な記事を掲載しています。

より地域に密着した医療機関を目指すこと、そして島民の皆様はもちろんのこと、島外在住の皆様にも当院をもっともっと知って頂くことを常に意識しながら、活きの良い「へいじろう」の如く、より新鮮な情報を皆様に発信できるように、これからも取り組んでいきます。

※「広報誌へいじろう」は、当院ホームページよりご覧いただけます。

### 【編集委員】

貴島 知世 (リハビリテーション室)  
 宮崎 一成 (リハビリテーション室)  
 加世田和博 (地域医療連携室)  
 坂口 健 (地域医療連携室)





第19号



第20号



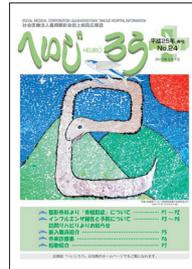
第21号



第22号



第23号



第24号



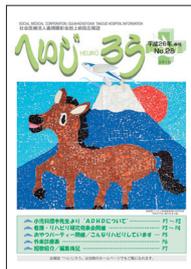
第25号



第26号



第27号



第28号



第29号



第30号



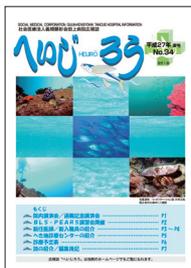
第31号



第32号



第33号



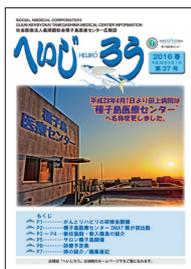
第34号



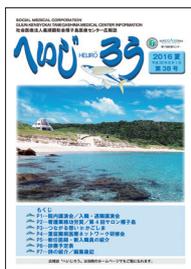
第35号



第36号



第37号



第38号



第39号



第40号



第41号



第42号



第43号



第44号



第45号

## 種子島鉄砲まつり

リハビリテーション室 理学療法士 吉田 早織

平成 29 年 8 月 20 日（日）、今年で 48 回目となる種子島鉄砲まつりが開催されました。

この日は例年を上回る猛暑の中での開催となり、雨雲ひとつない青空の中で天候にも恵まれ一年に一度のお祭りが開催スタートとなりました。

種子島鉄砲まつりの由来は、1543 年（天文 12 年 8 月 25 日）種子島に鉄砲が伝来した事のお祝いとして開催されています。1 日を通して太鼓山、子ども山、団体手踊り、南蛮行列、演芸大会、お祭りの締めくくりは満点の星空に打ち上げられる花火となります。

4 月に入職してから初めて参加させて頂いた鉄砲祭りでは種子島医療センターの職員の皆様と一緒に手踊りに参加させて頂き、法人全体で総勢 80 人以上での参加となりました。背中には「義順顕彰会 種子島医療センター」と書かれた法被にみんなで袖を通しました。私たち、法人の前にも大勢の方々がいて、正直な感想は「こんなにも人が集まるの?!」と半信半疑でした。業務終了後にみんなで集まり、手踊りを練習した日々を思い出し、お祭りの規模の大きさを実感し、地域の人々や、観光でこのお祭りのために種子島に来た人々に見守られ、これから始まる光景に心が躍るスタートとなりました。

手踊りは種子島の民謡に合わせて踊りながら街の道を歩いていきます。業務終了後に練習しましたが、実際に音楽が流れると忘れてしまい先輩方の見よう見まねで踊りました。列が進むにつれてだんだん楽しくなってきたり自然に笑顔となり、回りにいる人たちと楽しく踊る事ができました。

また観覧客の中には、いままでお世話になった患者様やご家族様、職員の家族様がいらっしやり、見つけると手を振ってくれたり、「頑張れ〜」と声をかけてくれたりしてとても楽しかったです。またお茶や、食べ物など元気のでる差し入れもあり、地域の人々の優しさを感じながら進む事ができました。

後日、なぜこの手踊りに種子島医療センターが参加しているのか聞いてみると、種子島の地域を盛り上げるため、また島の中核病院である種子島医療センターを知ってもらう事を目的に平成 15 年から参加していると聞きました。

病院理念である「島民の皆様に愛され信頼される病院」を自覚し、今後、少しでも種子島の島民の皆様のために貢献できるように努力していきます。



## 第 27 回 種子島医療センター杯 ジュニアバレーボール大会

外来看護師長 園田 満治

第 27 回種子島医療センター杯ジュニアバレーボール大会を、平成 29 年 8 月 26 日に西之表市体育館で開催しました。今大会の参加チームはレギュラーパート 15 チーム、チャレンジパート 11 チームの合計 26 チームの参加があり、内、屋久島から 5 チームの参加もありました。

大会は、種子島医療センター小児科部長の歌も交えた開会のあいさつで幕をあげ、予選パートの試合が行われ、各チーム白熱した試合を展開していました。各パートの 1・2 位が決勝トーナメントに進出し、レギュラーパートでは、宮浦 A と栗生 A の屋久島勢が決勝に勝ち上がり、チャレンジパートでは、榕城男子 A と栗生 B が決勝に勝ち上がりました。

しかし、熱戦が続き 17 時を超えたために、決勝戦を行う時間がなく、今大会は 2 チームの優勝として決勝戦を行わずに大会は終了しました。

日頃、大会に向けて練習を頑張ってきた子供たちに、決勝戦の舞台を提供できず、運営スタッフ一同大会運営の未熟さを反省するところでした。来年度の大会に向けて、開催場所や大会運営に対して検討を行い、28 回大会が成功できるようにしたいと思っています。



## ゴルフの思い出

手術・中央材料室 主任 田上 義生

私が初めてゴルフをしたのは、昭和62年、当時22歳の頃だったと思います。当時は、現在のコスモリゾート種子島ゴルフクラブはまだ無く、中種子カントリークラブ9ホール（ショート8・ミドル1）パー28のコースでした。当時、既に病院のゴルフコンペが行われていました。最初はUターンして来た近所の先輩からマルマンのクラブセットを借りて参戦しました。1番ホールから、谷超えて一番年下の私は、今までのゴルフで一番緊張したと思います。前半9ホールまわり、山小屋風のクラブハウスで食事を摂り（メニューはカレーとラーメンのみ）後半も同じ9ホールをまわり、計18ホールで争いました。

もちろん結果は散々で、ゴルフ場の谷地にある練習場で練習するようになりました。ある日、いつもの様に自己流で打ちっぱなしをしていると、当時、院長の田上容正先生に「力いっぱい振らんばやる、ジャック・ニクラウスのお父さんが言うのとった」と声をかけてもらった事を憶えています。その後、何回目かのコンペで一度優勝もさせてもらいました。それから4年後26歳の時、現在のコスモリゾート種子島カントリークラブがオープンし、クラブハウスの豪華さとコースの美しさに感動しました。私はスコアなんてどうでも良くて、まわる事自体が楽しかった。周囲もそんな感じでした。私はゴルフ場で見える景色も大好きです。グリーン上からティーグラウンド方面に見た時に見える景色というのは、とても壮大で素晴らしい景色です。

最近思う事は、人より良いスコアでまわりたいのは本能ですが、良いスコアで上がりたいと思っ  
てまわれるものには無いですし、できる事は目の前のショットを真剣にする事。後はミスを悔やま  
ない事だと思います。ゴルフの名言に「ゴルフとはどれだけ飛ばすかでは無い、どこに止めるかの  
ゲームである。」という名言が有るとか無いとか。ちなみに私のベストスコアは96です。30年  
もやっているのに微妙なスコアですけど、出来るだけ長く楽しく、ラウンドしたいと思います。



## 種子島医療センターサーフィン部 (TSC)

リハビリテーション室 作業療法士 當房 紀人

種子島は鹿児島市内からフェリーで約3時間半、高速船で約1時間30分の位置にあります。南北約58km、東西5～12kmと細長く、島の中心である西之表市街地から車で1時間あれば最南端まで観光が可能です。

種子島のサーフポイントはリーフ（岩礁）、サーフ（砂浜）、リバー（河川）など様々な地形からなります。島全体を通して多くのサーフポイントがあり、強風や雨の日でもポイントによっては天気が良かったり、風の影響がなかったりと東西南北どこかで綺麗な波が立ちます。そのため年間を通してサーフィンが可能です。多くのポイントが存在するためグッドウェーブでも混雑することも少なく、自分のペースで波乗りをすることが可能です。冬季の平均気温は12度前後と比較的、温暖な気候で3mmのフルスーツがあれば何とか乗り越えられます。夏～秋季では台風の影響を受けやすく、台風が発生し、接近するにつれ徐々に南面がサイズアップし台風通過後もビックスウェルが届きます。

サーフィン関係のイベントも多く、2017年9月には「日本プロサーフィンツアー2017第6戦」が開催されました。現在は2019年に公開される映画「Life on the Longboard 2nd wave」の撮影などで盛り上がっています。

種子島医療センターサーフィン部(TSC)は約30名で活動しており、メンバーは全員が法人職員でショートボード、ロングボード、スタンドアップパドル(SUP)、ボディボードなど様々です。SNSを通して波情報の共有など多くの情報交換を行ったり、一年間で新人歓迎会、忘年会、新年会など多くの企画を開催しています。メンバー全員が集まりサーフィンをすることは難しいですが年に一度、集合写真とみんなでサーフィンを行います。

暖かく、透きとおった海、グッドウェーブに恵まれる、この様な島で仲間たちと楽しく会話をしながらサーフィンをする時間は最高なひと時です。経験に左右されず、多くの海が好きな人たちと関わってサーフィンを楽しんでいけたらと思います。



## 種子島鉄砲ゲートボール大会に参加して

リハビリテーション室 言語聴覚士 和田 楓貴

リハビリテーション室の5人でゲートボール大会に参加しました。

その日は台風接近に伴い天気が悪く雨天の中で行われました。

雨が降れば中止と思っていた私たちは傘だけをもって参加しましたが、地域の皆さんは準備が良くカッパを持参されていました。雨が激しくなる中、傘を持っているとゲートボールはできない、と快く地域の方がカッパをお貸し下さいました。

さて、いよいよゲートボール大会が始まりましたが、5人全員が初心者に近い私達、1番ゲートからなかなか入らず、苦戦します。ゲームが進むにつれ慣れてきてようやくゲートを通せるようになります。相手チームより優位になると、もしかすると自分たちは上手なのではないかと大喜びでした。

そのような中、一息をついて他の場所で試合をしているチームを見るとは大きな掛け声が聞こえます。怒っているようにも聞こえる掛け声の先を見つめると、真剣な表情で試合をしている地域の方々がありました。「そこじゃなかー」と聞こえる声の中、自分たちの試合には見られない技の数々が垣間見えました。

初心者チームで戦っていた私達と、ベテランの地域の皆さん。雨の中カッパを着てすごい技の数々を放つ様子を見て、地域の皆さんの力強さと凄さを知れた大会参加となりました。私たちも地域の皆さんに負けないように地域活動への参加や日頃のリハビリテーション業務に力を注いで参りたいと思います。

全ての試合が終了してからは表彰式があり、私たちは参加賞としてバナナなどを頂きました。ありがとうございました。



## 卓球大会への参加（種子島医療センター卓球部）

リハビリテーション室 理学療法士 門脇 淳一

平成 30 年 5 月 27 日に春季職域卓球大会が開催されました。

この大会は毎年春と秋に開催され、実は医療センターも協賛しています。種子島・屋久島・口永良部島から中高の卓球部や連盟の方、企業や友人同士での参加の方々まで、いろいろな方々が参加されます。階級も A 級 B 級 C 級と別れており、毎週練習をしている猛者から初めてラケットを持つような初心者まで、いろいろな方々が参加できて楽しめるようになっています。古今東西スポーツ競技は多いですがこれだけ多様な人が同じフィールドでできるものはなかなかないのではないのでしょうか。2016 年のリオデジャネイロオリンピックでの団体男女でのメダル獲得により大会の参加者も最近が増えてきている印象があります。

種子島医療センターチームは B 級に 1 チーム、C 級に 2 チームが参加してきました。

2 チームは初心者のチームでしたが、中学 1 年生たちと大人げなく？真剣勝負をしました。張本選手並みの「チョレイ！」の雄たけびを上げながら奮闘しましたが善戦むなしく 3 チームともに 1 勝 1 敗でまさかの予選で同率 2 位となり、じゃんけんで敗退しました。勝負は時の運ですね……。続く個人戦でも入賞することはできませんでした。

大会の後にはもう 1 つの楽しみである打ち上げに行つて次回への英気を養っています。大会参加以外はなかなか集まることが少ないメンバーではありますがこの打ち上げの場で親睦を図り、なかなか普段の生活の中では話す機会の少ない方々とも知り合い、話すことができる貴重な場です。実はこちらのほうが楽しみというメンバーも少なくないです。

次回の秋季大会では今回の 3 チーム以上での参加と表彰台を目指していきたいと思います。少しでも興味がある方はぜひ私まで声をかけてください。ゆかいな仲間たちが温かく迎えてくれます。卓球が強くなりたい人もただ楽しみたい人も、さらに大会後の飲み方に参加したい人などどんな目的でも歓迎です。道具は貸し出し可能ですので身一つで参加可能です。たくさんの仲間が増えてくれることを楽しみにしています。



## 「第2回つながる思い in かごしま」に参加して

地域医療連携室 室長 坂口 健

開催日時；平成 29 年 5 月 13 日（土）12 時 30 分～ 20 時

開催場所；鹿児島市かんまちあイベント広場

鹿児島県では、NPO 法人がんサポートかごしまが中心となり、2009 年より 5 年間にわたり「つながろう！命のリレー」、2013 年より全国にならって「リレー・フォー・ライフ・ジャパン in かごしま」を開催してきた。そして、2016 年から鹿児島県のがん患者とご家族のためのイベントとして、『第1回つながる思い in かごしま』として新たにスタートした。

第2回となるこのイベントだが、今年も県内医療機関や各種団体そして患者会等から多くの参加があった。当院からは Dr 花園・Ns 戸川・Ns 射場・OT 川原・MSW 坂口の 5 名が参加をした。

様々な催しがある中、今回の注目はバルーンリリース！！

真っ白な風船に各々が思いを書き入れ、スタート時と夕暮れ時に一斉に空へ放つものだ。真っ青な空へリリースされたその光景も爽快だったが、夕暮れ時のリリースは、薄紅色に染まった空に白い風船が重なり、バックの桜島へと流れ、何とも幻想的なものだった。



『がん』に対し、これだけ様々な立場の人たちが気軽に参加できるイベント。そして、そんな人たちと言葉を交わすことが出来る、私たち相談員にとって新たな気付きや知識を得る貴重な時間、そして貴重な場だと思う。また来年も、そんな時間を皆と共有できることを期待したい。

## サロン種子島のご紹介

緩和ケア委員会 副看護師長 射場 和枝

種子島医療センターでは、平成28年4月よりがん患者様やご家族の交流の場としてサロン種子島を開催しています。がん患者様やご家族が、病気の悩み、体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場となるよう考えています。平成29年度の内容としては、

心地よい眠りについて  
口の清潔について  
消化の良い食事について  
ミニ音楽会

など、20分から30分程度のミニ講演を行い、その後お茶を飲みながらおしゃべり会をしました。



平成30年度は、以下の内容で開催予定です。

場所：種子島医療センター4階 小会議室  
開催日：毎月第3金曜日  
時間：14時から16時まで  
参加費：無料  
参加申し込み：不要

- |                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| 4月 野菜を作ろう           | 10月 サロン種子島ミニ音楽会<br>(開催日は未定です) |
| 5月 日焼け防止と皮膚トラブルについて | 11月 みんなで聞きたい話                 |
| 6月 歯の衛生について         | 12月 シャボンラッピング                 |
| 7月 介護保険について         | 1月 楽しい習字                      |
| 8月 治療中の食事の話         | 2月 たこ焼きを作ろう                   |
| 9月 自分でできるリンパマッサージ   | 3月 薬の話                        |

(サロン種子島は、当院に通院の有無にかかわらず参加可能です)

4月は、当院リハビリ室が管理中の菜園で野菜の苗を植えました。夏に収穫を楽しめるナス・ピーマン・キュウリを植えていますので、近くを通られる際は野菜の成長を楽しんでいただけたらと思います。サロン種子島への皆様の参加をお待ちしています。どうぞお気軽に声をおかけください。

## 促通反復療法（川平法）を学んで

リハビリテーション室 副室長 濱添 信人

促通反復療法（川平法）とは、鹿児島大学名誉教授であり、現在東京都渋谷区に「川平先端ラボ」を開設されている川平和美先生により開発された脳卒中患者への運動療法技術です。具体的に促痛反復療法とは、患者の意図した運動の実現と反復によって目標の神経路の再建・強化を行い、麻痺の大きな改善を得ています。日本脳卒中学会により発行されている脳卒中ガイドラインにおいて、行うように奨められている「グレードB」に推奨されており、数々の治療成績と実績を挙げている治療法です。

私は、平成29年11月6日から平成29年11月14日の約2週間、霧島リハビリテーションセンター（現在閉館）で促痛反復療法（川平法）の研修に行かせて頂きました。研修場所のセンターは県内でも有名な霧島温泉街の中心にあり、硫黄の煙が噴出し、周囲は硫黄の匂いがする場所でした。宿泊先はセンター横にある研修生専用の宿泊施設に泊まり、他の研修生と一緒に2週間過ごしました。研修生は、私以外に5名いて、沖縄、長崎、大阪、奈良と各地から来られ、促通反復療法が全国的にも知られ、学びたいセラピストがたくさんいることを改めて感じました。研修では、はじめの1週間は手基本的な手技の練習をひたすら研修生同士で取り組み、空いた時間には川平先生から直接講義をして頂いたり、医師による回診に参加したりと休む間もないくらいのスケジュールでした。2週目からは患者様を実際に担当して、促通反復療法を行う治療場面に介入させて頂きました。やはり研修生同士で練習したときと実際の患者様では勝手が違い、なかなか上手くいかず、患者様にも迷惑をかけることが多かったのですが、練習と実践を繰り返していく中で、上手くいくことが多くなり、最終日近くには自信を持って治療できる自分がいました。研修では、川平先生をはじめ、下堂園教授、各医師の先生方、指導して下さったPT、OTの先生方からたくさんの事を教えて頂きました。今回の研修で学んだことを、当院のリハビリテーション室スタッフに伝達指導し、法人全体で促通反復療法を島民の皆様提供できるようにしていくことが私の役割だと考えています。リハビリテーション室スタッフ全員で日々研鑽し、より質の高い、さらに最短で最大限の成果を出せるリハビリテーションを提供できるようにしていきたいと思います。



## 転倒転落防止ワーキンググループ

---

副看護師長 矢野 順子

委員長 / 高尾尊身

委員 / 矢野順子、戸川英子、羽生泰子、丸野嘉行、小川智浩、牛野文泰、八嶋真本城裕美、田中真奈美

転倒転落防止ワーキンググループでは当院における転倒転落の低減を図るための取り組みを行っています。

今後は昨年度充実させることの出来なかった、院内ラウンドの充実、勉強会の開催、ピクトグラムの作成など行っていきたいと思います。

今後ともスタッフの皆様のご協力をお願いします。

### <活動内容>

- 1 当院の転倒転落事案の分析、対策を検討する
- 2 患者家族への指導
- 3 職員に対する防止策の指導、啓発活動

### <平成 29 年度の取り組み>

- ・症例検討会
- ・医療安全研修会参加への声掛け
- ・ヘッドガード用防止の採用
- ・転倒転落発生時フローシートの見直し
- ・入院患者における睡眠・安定薬処方と転倒状況調査

## 摂食嚥下ワーキンググループ

リハビリテーション室 言語聴覚士 八木 道博

委員／高尾尊身、戸川英子、上妻幸枝、下園順子、能野明美、飯田ゆりえ、伊東正子、春村美智枝、大中沙織、渡邊里美、細山田重樹、酒井宣政、八木通博

患者様の食事について誤嚥性肺炎の予防など当院食事場面に関する問題点を検討し、その対応策を講じることを目的として平成30年3月摂食嚥下ワーキンググループを立ち上げることとなりました。医師・看護師・管理栄養士・臨床工学技師・作業療法士・言語聴覚士と多職種による検討を行うことが、本ワーキンググループの特長となっております。

わが国において肺炎は死因の第3位であり、高齢者の方は誤嚥性肺炎をはじめとする食事に関する困難さを抱えていると言われております。当院においても入院患者の多くは高齢者であり、その方々の中には嚥下機能低下による誤嚥・食事への意欲低下による低栄養など食事に関するリスクを持つ方が少なくありません。当ワーキンググループでは現状の把握や啓発活動等を通して、上記問題の解決に取り組んでいく予定です。

当院では学会分類2013に沿ったトロミの表記を行っております。

●学会分類2013（とろみ）早見表

	段階1: 薄いとろみ[Ⅲ-3項]	段階2: 中間のとろみ[Ⅲ-2項]	段階3: 濃いとろみ[Ⅲ-4項]
英語表記	Mildly thick	Moderately thick	Extremely thick
性状の説明 (飲んだとき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「drink」という表現が適切なとろみの程度</li> <li>●口に入れると口腔内に広がる液体の種類・味や温度によっては、とろみがついていることがあまり気にならない場合もある</li> <li>●飲み込む際に大きな力を要しない</li> <li>●ストローで容易に吸うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明らかにとろみがあることを感じ、かつ「drink」という表現が適切なとろみの程度</li> <li>●口腔内での動態はゆっくりですぐには広がらない</li> <li>●舌の上でまとめやすい</li> <li>●ストローで吸うのは抵抗がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明らかにとろみがついていて、まとまりがよい</li> <li>●送り込むのに力が必要</li> <li>●スプーンで「eat」という表現が適切なとろみの程度</li> <li>●ストローで吸うことは困難</li> </ul>
性状の説明 (見たとき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スプーンを傾けるとすっと流れ落ちる</li> <li>●フォークの歯の間から素早く流れ落ちる</li> <li>●カップを傾け、流れ出た後には、うっすらと跡が残る程度の付着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スプーンを傾けるととろりと流れる</li> <li>●フォークの歯の間からゆっくりと流れ落ちる</li> <li>●カップを傾け、流れ出た後には、全体にコーティングしたように付着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ、流れにくい</li> <li>●フォークの歯の間から流れ出ない</li> <li>●カップを傾けても流れ出ない(ゆっくりと塊となって落ちる)</li> </ul>

※本表は必ず「嚥下調整食分類2013」の本文を併せてご覧ください  
⇒ [http://www.jsdr.or.jp/doc/doc\\_manual1.html](http://www.jsdr.or.jp/doc/doc_manual1.html)

# 新入職員研修

看護部長 戸川 英子

日時；平成29年4月4日、5日（2日間）

時間：9時～12時30分

場所：当院4階大会議室

対象者：看護師6名 理学療法士5名 作業療法士2名 言語聴覚士2名  
臨床工学技士1名 薬剤師1名 総務事務 2名

平成29年度は既卒者も含めて19名の上記職種の新入職員が種子島医療センターの仲間になりました。

恒例の自己紹介では、地元出身はもとより、福岡、東京、遠くは、沖縄や北海道出身者もあり、種子島医療センターの知名度も上がってきていることに驚き、感動しました。

一人ひとりの笑顔がとてもしフレッシュな新人を迎える職場は、恒例のごとく、何かと先輩スタッフも笑顔となり、職場も心地よい緊張感が漂う素敵な季節でもあります。

全体研修後は、各職場に配属され、いよいよ現場での研修と実務がスタートします。初心を忘れずに、社会人として、種子島医療センターの職員として自覚と責任ある行動を実践してくれるものと期待します。

地域医療に貢献できる病院、患者さまにも職員にも安心安全な病院として責務を果たせるよう、ともに自己研鑽していきましょう！

新入職員の皆さん、宜しくお願い致します。

## 平成29年度 新入職員全体研修

研修目的： 種子島医療センター職員としての自覚を養うとともに、早期に職場に順応する。

- 目標：
- 1、病院・各部署の概要をする。
  - 2、病院職員としての誇りを持ち意欲を高めることができる。
  - 3、病院職員としての責任・協調性・チームワークの重要性を認識して、相互の連帯感を深めることができる。
  - 4、医療チームの一員としての必要な知識・技術を習得する。

月日	時間	研修内容	担当者
4/4	9:00～	新規採用者研修オリエンテーション 辞令交付式	事務長 白尾隆幸
		理事長あいさつ 辞令交付	理事長 田上寛容 病院長 高尾尊身
		採用者自己紹介	
	9:30～10:30	院長講話 『離島医療・医療安全』	病院長 高尾尊身
	10:30～11:30	『労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識』 労働関係法令、労働契約、就業規則、労働時間・休憩・時間外勤務、年休、安全配慮義務、出産・育児・介護休暇、人事考課、職場で生じる問題と対処	石走社会保険労務士事務所 社会保険労務士 石走啓一
11:30～12:00	事務局長『社会人として』	事務局長 羽生守彦	
12:00～12:30	種子島医療センター紹介 入職に対する事務手続	事務長 白尾隆幸	
4/5	9:00～9:30	写真撮影・飛魚原稿作成	看護部長 山口智代子
	9:30～11:00	接遇	Right-hand 株式会社 宮里一葉
	11:00～11:30	産業廃棄物適正処理について ～医療廃棄物取り扱い～	特別管理産業廃棄物管理責任者 宮里浩一
	11:30～12:00	院内感染対策	院内感染対策委員 遠藤禎幸
	12:00～12:30	医療安全対策について	医療安全管理者 戸川英子



## ふれあい看護体験

看護局長 山口 智代子

毎年、「看護の日」制定記念事業の一つとして、希望者に実際の看護体験をしていただき、患者さんとのふれあいを通して看護する事や人の命について理解と関心を深める機会として「ふれあい看護体験」を実施しております。ふれあい看護体験を実施しましたところ、高校生15名の参加がありました。今回の体験を通して将来の職業を思い描くことが出来たのではないかと思います。(平成29年7月29日実施)

(タイムスケジュール)

- 9:00 集合  
 病院紹介・医療職の紹介  
 記念撮影  
 10:00 職業体験  
 12:00 職員食堂で昼食  
 13:00 職業体験  
 15:00 感想・意見交換  
 16:00 終了

(職業体験スタート)



患者さんとコミュニケーション



配膳・配茶



病棟オリエンテーション



シーツ交換 →





待ちに待った食事の時間



お腹いっぱい食べました。



力を蓄えて午後からも頑張るぞ！



全員で記念撮影 ～はい、ポーズ♪～

看護師という仕事は、優しいだけでは務まらないという事も教わりました。日々、命に向き合う仕事なので、人の生死を目の当たりにする場面が多いといえます。そこで、強さも必要だという事を教わり私も精神的に強くなろうと思いました。コミュニケーション力や教養、精神力など、たった一日でしたが大事な事を見たり感じたりすることができて、とても勉強になりました。

私は小学校3年生の頃から助産師になりたいという夢を持っています。3回目のこの体験では、実際にこのような看護師になりたいという理想の看護師像を想像したり、今までよりはっきりと自分の夢を確かなものにすることが出来ました。

僕の将来の夢はフライトナースです。フライトナースは、十分な経験を積んだ看護師しか慣れないのでまずは看護師をしっかりと知ろうと思い、この体験を希望しました。この体験を経て、僕は看護師の仕事の多さを改めて知ることが出来ました。そして、その仕事には無駄なことは一つも無く、どれも患者さんのために行う仕事である事に気づかされました。一つ一つの仕事を大切にしていこうと思え、人のために何かをする、できるという喜びを味わえました。

将来、ふれあい看護体験に参加していただいた皆さんと種子島医療センターと一緒に働けることを楽しみにしております。

看護部一同

## 平成 29 年 現地施設見学会を開催して

リハビリテーション室 部長兼室長 早川 亜津子

### <はじめに>

当院の療法士の8割は、島外出身者です。離島のリハビリテーション医療に従事したいと考える療法士や、療法士の卵に当院のことを知ってもらうために、在職している療法士と「できることはないか?」と一緒に考えた。その中のひとつに「実際に、種子島に来てもらって見学会を開催してはどうか?」との意見があがり、今年度はじめて開催しました。

### <対象者>

平成 30 年度 PT・OT・ST 養成校卒業予定者または、有資格者。

### <開催日と参加者>

	開催日	時間	参加者	その他
第1回	8月26日	10時～14時	5名	
第2回	11月4日	10時～14時	2名	10/28開催であったが台風のため延期
第3回	12月9日	10時～14時	2名	

東京、福岡からの参加者が多かった。

### <内容>

パワーポイントを使用し施設概要紹介  
 実際にリハビリテーション室にて療法士の治療場面を見学  
 ランチ交流会  
 院内施設見学

### <結果>

上記、施設見学会では9名の参加者があった。そのうち、7名の参加者が採用面接を受験するに至った。また、個別での施設見学の受け入れが9名あった。そのうち、15名の療法士を採用予定としている。

### <今後の展望>

次年度は、施設見学会の回数を増加するとともに、離島での就職を心配されるご家族様の参加も受け入れる体制にしていきたいと考える。

実際に、種子島へ来てもらえると「ここで働きたい」「成長したい」と感じてもらえると考えため、継続開催としていきたいと考えます。

## リハビリテーション職業体験&セミナー

リハビリテーション室 副室長 濱添 信人

リハビリテーション室では、平成 29 年度から初めて島内の高校生向けのリハビリテーション職業体験&セミナーを開催しました。高校生達に、リハビリテーションについて興味関心を持ってもらい、進路の選択肢の一つにしてもらいたいという強い思いがあり、リハビリ室全体で協力して開催が実現しました。初めてのことで、学校への依頼や段取りなど分からないことばかりで、上手くいかないこともありましたが、看護局長のサポートもあり、当日を迎えることができました。参加人数もお陰さまで、初めてにしては多くの高校生が参加してくださり、種子島高校が 15 名、種子島中央高校が 3 名の高校生が参加してくださいました。参加してくれた高校生のみなさんは礼儀正しく、言葉使いも丁寧ですごく感心させられたことを覚えています。体験&セミナーの内容は、午前にはリハビリテーションについてスライド説明や各専門職のセラピストが講師になって治療や訓練などの模擬体験をしてもらいました。午後からは、セラピスト一人一人に高校生がついて患者様の治療場面を見学してもらいました。また、病棟でのレクリエーションにも一緒に参加してもらい、楽しい時間を患者様と共有してもらうことができました。終了後に一人一人に感想文を書いてもらい、「すごく楽しかった」「勉強になりました」「リハビリの仕事を目指したい」など嬉しい意見を書いてくれた学生さんもいました。平成 29 年度も継続して開催する予定ですので、学生のみなさんにもっともっとリハビリテーションについて知ってもらえるように色々な工夫をして開催していきたいと思えます。



リハビリテーションについてのセミナー



作業療法模擬体験



片麻痺体験



言語聴覚療法模擬体験



理学療法模擬体験

## ボランティア受け入れ報告

看護局長 山口 智代子

種子島医療センターでは、地域に根ざした病院として、地域住民などによるボランティアを積極的に受け入れ、専門性を生かしたボランティア活動を行ってもらっています。ボランティアの方々の笑顔とふれあいにより、患者様の心の安らぎがもたらされ、大きな支えになっています。

### クリスマスキャロル（西之表基督協会）

西之表基督協会の皆様が、12月24日のクリスマスイブに種子島医療センターに素敵な讃美歌を届けていただき、皆様の回復と健康をお祈りしていただきました。素敵な讃美歌を有難うございました。



自分の出番までお友達の応援。ガンバレー



手を叩いたり、跳ねたり、元気いっぱい踊りました

### クリスマスおゆうぎ会（院内保育所）

院内保育所の園児が、可愛い衣装を着て、元気な歌とおゆうぎを披露してくれました。サプライズのサンタさんを赤鬼と間違っ泣き出す子供も！とても可愛いクリスマス会でした。



## 七夕事業所訪問（めいろうこども園）

めいろうこども園の園児達が、沢山の願いを書いた七夕飾りを持って、訪問して下さいました。子供たちの可愛い合唱に患者様も笑顔になりました。有難うございました。



“皆さんの願いがかないますように”

## ミニ音楽会

種子島ウインドアンサンブルの方々が、外来フロアで素敵な曲を演奏して下さいました。一緒に歌う方や涙ぐむ方もいて、癒しのひと時となりました。ミニ音楽会を有難うございました。



## 季節を感じる美しい花々

病院のいたる所に季節を感じる花々が飾られているのをご存じでしょうか？上妻芳江さん・加世田佳子さん・名越駿三さん・田上那枝さんが、種子島医療センター正面玄関や踊り場、トイレ、花壇を美しく飾って下さいます。患者様に少しでも季節を感じていただき、喜んでいただければと、自宅で丹精込めて育てた花々をお届けしております。いつも有難うございます。



名越駿三さん

上妻芳江さん



加世田佳子さん

## 病院見学・実習・体験実績

平成 29 年	4/10～14	鹿児島大学医学生 3名 (病院実習)
	4/10～6/2	日本リハビリテーション専門学校作業療法学科 1名 (病院実習)
	4/17～6/30	琉球リハビリテーション学院作業療法学科 1名 (病院実習)
	4/24～28	鹿児島大学医学生 3名 (病院実習)
	5/8～7/15	鹿児島医療福祉専門学校理学療法学科 1名 (病院実習)
	5/8～7/15	鹿児島医療技術専門学校作業療法学科 1名 (病院実習)
	5/15～19	鹿児島大学医学生 3名 (病院実習)
	5/19～7/14	鹿児島医療技術専門学校理学療法学科 1名 (病院実習)
	5/29～6/2	鹿児島大学医学生 3名 (病院実習)
	6/12～16	鹿児島大学医学生 3名 (病院実習)
	6/17	国上小学校 2名 (リハビリテーションの見学)
	6/19～30	新潟大学医学生 1名 (病院実習)
	6/26～30	鹿児島大学医学生 1名 (病院実習)
	6/27	種子島産婦人科医院看護師 2名 (手術見学)
	7/5～7	種子島中央高校生職場体験 3名 (リハビリテーション 2名、栄養士室 1名)
	7/18～9/23	福岡医療専門学校作業療法学科 1名 (病院実習)
	7/18～9/8	鹿児島大学医学部保健学科理学療法専攻 1名 (病院実習)
	7/24～28	鹿児島大学看護科 4年生 2名 (病院実習)
	7/25	中種子町養護学校 1名 (リハビリテーションの見学)
	7/27	中種子町養護学校 1名 (リハビリテーションの見学)
	7/29	中種子町養護学校 1名 (リハビリテーションの見学)
	7/29	ふれあい看護体験 種子島高校生 9名、種子島中央高校生 6名
	8/17	東京大学 学生 3名 (施設見学)
	8/24	中種子町養護学校 1名 (リハビリテーションの見学)
	8/25	中種子町養護学校 1名 (リハビリテーションの見学)
	8/26	リハビリテーション室現地施設見学会 5名 (病院見学)
	8/28	中種子町養護学校 1名 (リハビリテーションの見学)
	8/29～10/22	植草学院大学理学療法学科 1名 (病院実習)
	9/5～10	鹿児島大学医学生離島実習 4名 (病院実習)
	9/9	鹿児島大学看護科 2年生 6名 (病院実習)
	9/16	国上小学校 1名 (リハビリテーションの見学)
	9/25	鹿児島大学病院看護師 1名 (患者インタビュー)
	9/25～10/14	群馬パース大学理学療法学科 1名 (病院実習)
	9/26～28	種子島高校生 7名 (就業体験学習)
	10/2～10/28	福岡医療専門学校理学療法学科 1名 (病院実習)
	10/11	日本看護学校協議会共済会 2名 (マガジン取材)
	10/16～11/2	日本リハビリテーション専門学校作業療法学科 1名 (病院実習)
	11/4	リハビリテーション室現地施設見学会 2名 (病院見学)
	11/18	種子島高校生 15名 (リハビリテーション職場体験&セミナー)
	11/25	種子島中央高校生 3名 (リハビリテーション職場体験&セミナー)
	12/9	リハビリテーション室現地施設見学会 2名 (病院見学)
平成 30 年	1/9～1/26	日本リハビリテーション専門学校作業療法学科 2名 (病院実習)
	1/15～2/2	鹿児島医療技術専門学校作業療法学科 1名 (病院実習)
	1/23～2/5	種子島中学校 1年生 5名 (職場体験学習)
	2/5～2/23	日本リハビリテーション専門学校作業療法学科 2名 (病院実習)
	3/7	せいざん病院 2名 (薬剤部見学)